

港湾振興便り



2011. 8

第52号

:~

目次

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

- 1 ポートエッセイ 天災は忘れたころにやってくる
～日本港湾振興団体連合会会長 平松 守彦～

- 2 トピック
 - 帆船「日本丸」が船川港へ寄港! (男鹿市総務企画部船川港記念事業推進室)

 - みなとオアシス「れぶん」の登録証授与式が行われました
(北海道開発局 港湾計画課)

 - 今年も盛大に開催! ～第5回ビーチライフIN新潟～
(ビーチライフIN新潟実行委員会)

 - 中四国・瀬戸内クルージングサミット開催 (愛媛県新居浜市)

 - 「第26回東京湾クリーンアップ大作戦 横浜港特別行事」を開催しました
(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

 - 大阪湾の生き物を一斉調査 ～第4回大阪湾生き物一斉調査の実施～
(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課)

3 お知らせ

::*:*:*:*:*~

- 1 ポートエッセイ 天災は忘れたころにやってくる
～日本港湾振興団体連合会会長 平松 守彦～

::*~

有名な寺田寅彦先生の名言である。寺田先生は旧制五高の先輩で、1941年旧制五高を受験するため、私は大分から汽車で熊本に赴いた。当時、熊本—大分間は豊肥線で7時間かかった。阿蘇山の外輪を走ってゆくので、やたらにトンネルが多く、石炭の焼煙で熊本の下宿についた頃には鼻の中が真っ黒であった。

私は学校の背後にある竜田山の登り口近所に3年間下宿した。旧制五高は蛮カラで有名だが、夏目漱石が教授であり、阿蘇山をテーマとする随筆もあり「三四郎」も五高生である。寺田先生の下宿は私の下宿から近く、学校をさぼっては竜田山周辺を散歩した。寺田先生は夏目先生の愛弟子として可愛がられ、理工系ながら文章にたけ、天災は忘れたころにやってくるは先生の名言だが、先輩から聞いた話によると、先生の五高在学中に阿蘇山の大爆発があったという。遠く阿蘇の噴煙を眺めながらこの言葉が浮かんだのであろう。

*:

2 トピック

*:

●帆船「日本丸」が船川港へ寄港！ (男鹿市総務企画部船川港記念事業推進室)

船川港築港100周年を記念して、8月5日帆船「日本丸」が入港しました。歓迎セレモニーでは、大藤船長・井上機関長・栄原実習生代表へ脇本保育園児から花束が贈呈され、渡部男鹿市長歓迎あいさつのもと、初寄港を記念してレリーフと男鹿産メロンの贈呈、脇本第一小学校生徒からジオパーク研究成果品のプレゼント、船からは、小学校へ絵本の贈呈、市長へ記念品の贈呈、船長あいさつのもと、小学校のアトラクション、特別船内見学が行われました。

また、6日は、セイルドリル、7日は、一般の船内見学、寄港中は、日本丸グッズや男鹿物産の販売、夜は、10時までイルミネーションを点灯、9日の出港には登橋礼(とうしょうれい)が行われ、多くの来場者が黄色いハンカチを振って見送りました。



●みなとオアシス「れぶん」の登録証授与式が行われました

(北海道開発局 港湾計画課)

この度、北海道礼文島の玄関口である香深港が、みなとオアシス「れぶん」として6月13日(月)に本登録され、7月17日(日)に開催された「水産まつり うめーべや フェスティバル」会場において、登録証の授与が行われました。今回認定されたみなとオアシス「れぶん」は道内離島港湾では初、全国では54番目の登録となります。

当日は、利尻富士がうっすらと見えるあいにくの曇り空でしたが、大勢の町民や観光客で賑わう中、会場特設ステージ上で北海道開発局栗田港湾空港部長から小野礼文町長に登録証が手渡され、会場から盛大な拍手が沸き上がりました。



今後も本オアシスの取り組みにより、みなとを核とした地域住民・観光客による元気なみなとづくりが期待されます。

ホームページURL

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kowan/minatooasis/rebun_touroku.html

●今年も盛大に開催！～第5回ビーチライフIN新潟～

(ビーチライフIN新潟実行委員会)

7月24日(日)、新潟西海岸(日和山浜海水浴場)で第5回ビーチライフIN新潟が開催されました。当日は昼から快晴となり、最高気温が30度を超える強い日差しの中で、絶好のビーチ日和となりました。砂浜では、朝から盛りだくさんのイベントが行われ、恒例となったビーチフラッグス大会やビーチ相撲では、チビ子が砂まみれで転げ回っていました。

ステージ上では、フラダンス、ビーチヨガなどが行われ、ビーチに花を添えていました。来場者は約2,000名と昨年より少し減りましたが、毎年夏の恒例行事として定着してきています。

また、昨年に引き続き、新潟市バレーボール協会主催の第4回ビーチバレー4人制オープン大会、新潟県サッカー協会主催の第3回新潟県ビーチサッカー大会が同時開催され、熱戦が繰り広げられました。



大勢で押し出せ



フラッグ目指してゴー

●中四国・瀬戸内クルージングサミット開催

(愛媛県新居浜市)

7月3日(金)、愛媛県新居浜市(新居浜マリーナ)において、中四国・瀬戸内クルージングサミットが開催され、約100名が参加しました。



「5市長の力強い共同宣言」

本サミットは、広島県福山市、岡山県瀬戸内市、愛媛県新居浜市、香川県高松市、三豊市の5市を会員として昨年発足したものです。サミットは、文化振興協会の徳野涼子氏記念講演会が行われた後、5市長によるサミットが行われ「中四国・瀬戸内発、海辺の文化の創造での海の路を再構築しよう!」とした共同宣言が採択されました。来年度は広島県福山市で開催される予定です。

●「第26回東京湾クリーンアップ大作戦 横浜港特別行事」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

今年26回目を迎えた東京湾クリーンアップ大作戦は国や自治体が行っている東京湾の清掃活動をみなさんに知ってもらうため、海の月間(7月1日~31日)に合わせて実施している活動です。この活動の一環として東京湾を身近に感じてもらうことを目的に7月23日(土)に「横浜港特別行事」を横浜港新港ふ頭5号岸壁にて関東地方整備局、第三管区海上保安本部、横浜市港湾局の共催で開催しました。

会場には約470人の来場者があり、関東地方整備局所属の清掃兼油回収船「べいくりん」、第三管区海上保安本部所属の消防船「ひりゆう」の船内見学や横浜市所属の清掃船「青海丸」の展示及び各機関の活動の紹介をおこないました。

参加者の方からは3月11日に発生した東日本大震災が記憶に新しいこともあり、東北で「べいくりん」がおこなった海上浮遊物回収作業の説明パネルに関心が集まっていました。

また、「東京湾のゴミは増えているのか?減っているのか?」など、海の清掃活動について多くの質問がありました。



多くの来場者で賑わう会場



べいくりんゴミ回収装置(スキッパー) 見学者



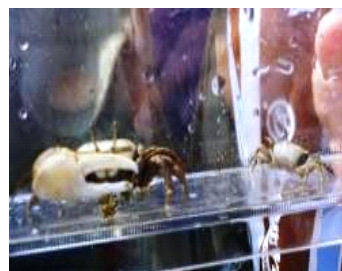
べいくりん操舵室の説明を受ける見学者

●大阪湾の生き物を一斉調査 ～第4回大阪湾生き物一斉調査の実施～
 (近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課)

大阪湾における海の環境状態を幅広い範囲で把握するとともに、市民の方々に海の環境について関心を持っていただくために、平成20年度から年に一度、大阪湾の生物について市民の方々と一緒に調査を進めていく取り組み「大阪湾生き物一斉調査」を今年も6月4日(土)を中心として実施しました。

4回目となる今回の調査は、日頃から大阪湾の各地で環境問題に取り組んでいる市民団体や環境に関心のある一般の参加者等が、全18地点において総勢931名が生き物の一斉調査を実施しており、学識者等の協力を得ることで大阪湾の広範囲な水環境を把握するものです。

なお、昨年の第3回目の調査は、平成22年5月29日に全17地点において実施しており、総勢792名が参加して生物474種を確認しました。また、環境省、水産庁、WWFおよび大阪府、兵庫県で指定されているレッドデータ種として48種が確認されています。



今回の調査結果は、今後、学識者の協力により生き物の同定を実施した後、9月23日(金・祝)に大阪市立自然史博物館に於いて「結果発表会」を開催する予定。



～各地での調査の状況～

今後も、大阪湾の環境に深く関わりのある大阪湾の生物について市民の方々と共同で一斉調査を行うことにより、市民の方々と一緒に大阪湾の環境をモニタリングしていく体制の構築を目指していきたいと考えています。

ホームページURL <http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>

 3 お知らせ

 ○ ベイ&リバーサイドパーティOSAKA2011の開催 (H23. 10. 10)
 ベリパ事務局：＜公益社団法人大阪港振興協会内＞ <http://www.beripa.com/>

